

たはずの西さんたちの足跡を確認。西さんたちも現在地確認のため、あちこちと歩き回ったようだ。

7:55顕著な二俣に出る。これが遡行予定の沢だと思ったが、平坦地のため高度計は役に立たず、蛇行した沢に方向感覚も狂い、現在地の確認ができない。無線交信で西さんたちがこの沢に入ったと確認できたので、私達はここで下降終了とした。
(記・)

[タイム] 御池(7:05)→沢(7:10, 7:15)→二俣・下降終了(7:55)

上大杉沢(仮称)

1989年7月30日

L.

和泉さんの車で送ってもらい、やぶをこいで沢に入る。実は大杉沢に入るつもりであったのだが、車道の上に目印がなく、現在地確認を誤ってしまい、予定の大杉沢より1本上流の上大杉沢(仮称)に入り込んでしまった。



7:10遡行開始。蛇行したり、時には流れが消えてしまったりと、湿原の中を複雑に流れている。途中ノタ場があり、獣たちの足跡が無数についていた。湿原地帯を抜けると、樹林帯を蛇行しながら流れるようになる。それでもゆるやかな流れでしかない。

出合から1時間程遡行したあたりからようやく傾斜がついてきた。でも滝はかからない。どんどんつめあげていったら、1mの小滝をみただけで、源頭の湿原となってしまった。15分のやぶごぎで、大杉岳と御池を結ぶ登山道に出る。
(記・)

[タイム] 出合(7:10)→遡行終了(9:15)→大杉岳(9:40, 10:00)→御池(10:40)

七入沢

1989年7月30日

L.

七入のテントサイトから車に便乗し、途中で降ろしてもらって沢に入る。すぐ

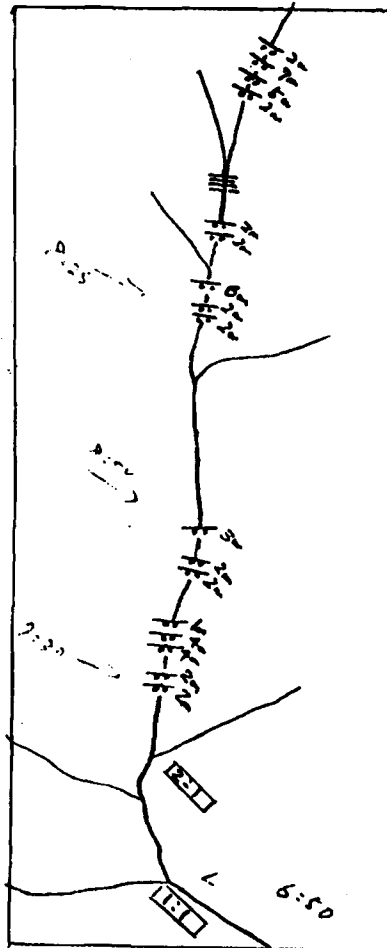
に七入沢出合。沢幅は5 m程で、さほど広くない。釣人のものと思われるアキカンなど、所々に目につく。

出合から40分程歩くと、2～3 mの滝がポツリポツリと出てくるが、すぐまた30分程の河原歩きとなる。

右俣出合を過ぎると、沢の勾配がきつくなってくる。このあたりから適当に滝がかかるようになってきた。いずれの滝も直登して進む。高度はどんどん上がってゆく。最後は滝というか、露岩というか、直登したらあとはヤブとなった。ヤブはさほどでなく、ヤブこぎに苦勞するほどでもない。10分程で登山道に飛び出した。

稜線で和泉、西の両パーティと無線交信。大杉岳で西・福原パーティと合流して、御池めざして登山道を下る。 (記・)

【タイム】 七入沢出合(6:50)→右俣出合(8:00)
→登山道(9:10)



只見川中流域左岸の沢

1989年度の沢登り集会は、8月26日に只見川流域にて実施した。あいにくの悪天で、27日の遡行が中止となり、1日だけの行動に終わってしまった。

押倉沢 1989年8月26日
Li

7:40遡行開始。押倉沢の水は、とてもきれいである。この前の台風で、沢床の